

TFFCC クロニクル 日本語版

アースデイ 2016 特別号

発行：東京フライフィッシング&カントリークラブ（東京都渋谷区 | tokyoflyfishing.com）



北海道 知床半島の川にある看板

Q. なぜこのフクロウは釣り人に話かけているのでしょうか？

Q. これって何フクロウ？

Q. でもキャッチ&リリースするなら釣ってもいいってどうということ？

生物多様性とキャッチ&リリース、漁獲リミット

フライフィッシングに限らず、釣りには「キャッチ&リリース」と呼ばれる、資源を減らさないように行う自発的な行為があります。言葉の通り、「キャッチ=捕獲する」「リリース=逃がす」です。古来からある漁においても、あらかじめ捕る魚の数を決めておいて、資源が減らないように、まだ成長していない小さい魚や、これから卵を産む魚をすぐにリリースする行為が行われてきました。さらに、捕る季節や捕る場所を制限することで、特定の魚種の産卵行動を邪魔しないようにする「禁漁」というコントロールも行われてきています。

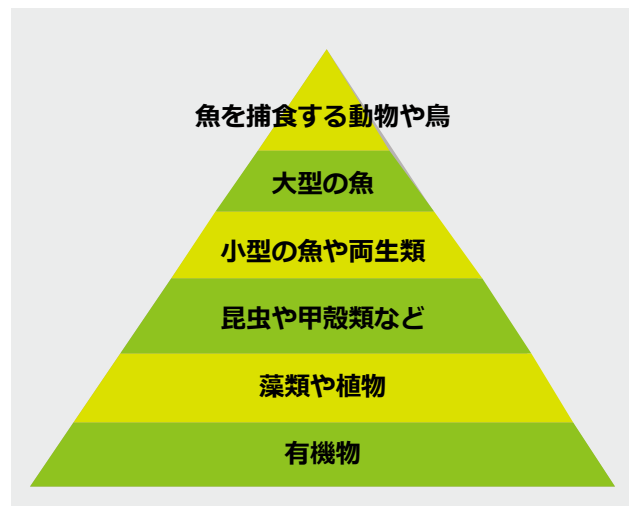
当たり前のことですが、根こそぎ捕ってしまえば、その水域の魚はなくなってしまい、これを人間社会の視点だけで見ても、持続性のある漁業ができなくなり経済が破たんすることになります。さらにこれを生態系全体の視野から見ると、その魚たちが捕食してきた昆虫や甲殻類の数が一次的に増大し、魚たちが死んだ後に形成される有機物が減ることで、それを栄養としてきた藻類や植物に影響が発生し、やがてそれを食べている昆虫や甲殻類も減っていくこととなります。そうってしまった後の水域に養殖した魚だけを放流したとしても、一度失われたサイクルはそうタイミング良く戻りません。

また、魚たちを食料としているのは人間だけではなく、その森や海に棲む鳥や哺乳類も数を減らしていくこととなります。移住先が見つかる動物もいますが、見つからなければ絶滅してしまいます。

商業漁業における問題

日本における漁業の漁獲高は年々減少を続けており、一部の漁業では、乱獲が原因による魚種の激減が経済的な圧迫をもたらす結果、他の魚種で穴埋めしようと、複数の魚種を巻き込んだ乱獲へと進んでいます。その中でも、大企業を中心に行われている、最大の漁獲高をもたらす「巻き網漁」は狙った魚以外の魚を大量に巻き込む漁法であり、国際的な問題となっています。

また、水産庁が設定する漁獲可能量制度「TAC(Total Allowable Catch)」で設定されている漁獲量は、現実的に漁獲されている数字より遥かに高い数値で設定されており、漁獲高をコントロールするリミットとしては、全く機能していません。1996年に国連海洋法条約を締結した日本ですが、自国の排他的経済水域の確保には熱心ですが、その中で起きているマイナスの変化に関しては効果的な施策を打っていないのが現実です。魚たちも疲弊していますが、日本中にある無数の小さい漁業者たちも深刻な状況に面しています。

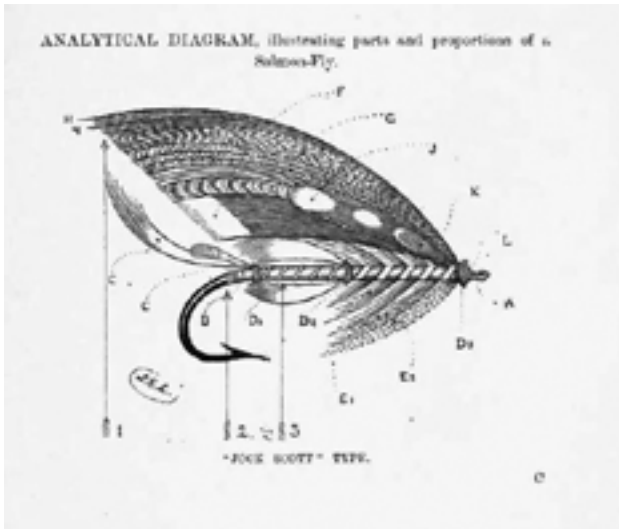


レクリエーションフィッシングにおける問題

全体の漁獲高と比較すれば、遊漁=レクリエーションフィッシングによる漁獲高は1%未満であり、大した影響がないように見えるかもしれませんが、しかし、対象となっているのは、先述の商業漁業の手から逃れた魚たちであって、人間が生活するエリアからもそう離れてはいない、すでに一定のプレッシャーを受けている魚たちです。中にはかろうじて個体数を維持している魚もいます。

そして、これらの魚たちも他の生物たちとのエコシステム（共存関係）の中で重要な役割を担っています。たった1%、しかしその数字でさえも、キャッチ&リリースや漁獲リミットによって維持されていることを忘れてはいけません。





フライフィッシングについて

フライフィッシングは、竿とリールと重みのある糸を使い、狙った魚のところまでフライ（毛鉤）をキャストして釣ります。この釣りで使われるフライ（毛鉤）は、魚の捕食している餌に似せたり、魚を挑発することで口を使わせるために、色々なパターンを考えて手作ります。また、ほとんどの場合、フライはシングルフック一本に、環境にダメージを与えない素材で巻かれています。また、上の絵では針先にかえし（パープ）がついていますが、最近では魚へのダメージを減らすために、かえしのない「バープレスフック」を使うことが推奨されています。

フライフィッシングは一匹を釣るまでのサイクルがゆっくりであり、魚の個体数を減らさないようにキャッチ&リリースを率先して行っています。この「スロー」さは非常に大切なことで、釣り人は一日のうちの長い時間を自然環境の中で過ごすことで、必然的に自らがその環境の中でどう振る舞うべきか、という課題を突き付けられます。この課題に取り組むうちに、自然の中における魚の行動に関する学習が深まり、より魚をうまく釣ることができるようになります。

そんなフライフィッシャーも、自然の調和を乱す危険生物の一つではないかもしれません。しかし、そこで長い時間を過ごす目撃者として、自然が発するメッセージを捉えて、問題提起をするチャンスも多いと思います。

3つの問い



今年のアースデイに際して、東京フライフィッシング&カントリークラブでも、メンバーのフライフィッシャー達へ3つの質問をしました。真っ先に答えてくれたのは、なんと去年フライフィッシングを本格的に始めたばかりのハワイ出身のアングラー、ディヴィッド・カーさんです。

1) How fly fishing make you learn about environment
あなたがフライフィッシングを通して自然について学ばされることは何ですか？

ディヴィッド：

今までやってきたどの釣りよりも、フライフィッシングは自然環境に対する知識や自覚を要求される。ターゲットの魚が何を食べているのかを知り、今そこで何がエサになっているのかにマッチさせ、潮や月の満ち欠け、天候、人間のプレッシャーなど、魚の行動に影響を与えるさまざまな要素から判断して、自分のアプローチを変えなくちゃならないんだ。正確さも求められれば、マクロな視点で魚がどういう行動をしているのかも考えさせられる。僕が釣っているこの魚は野生なのか、放流されたものか、それとも侵入してきたのか？今、立ちこんでいる川の健康状態はどうだろう？場所によっては汚染が深刻で釣りをしている場合じゃない、なんてね。

2) What Catch & Release fishing mean to you
あなたにとってキャッチ&リリースが意味することは何ですか？

ディヴィッド：

僕には、美しい生き物を殺すことや、不必要な苦しみを与えることに何の喜びも感じられない。川から新鮮なサーモンを釣ってきたり、海から大きなシイラを釣って美味しく料理して食べる事は最高だけど、その行為においても魚の取扱いが配慮された上で、持続性がなくちゃ意味が無いと思う。フライフィッシングでは、食べる目的じゃない、いや食べるのをためらうような魚を釣ることもある。始めからリリースすることが分かっている以上、無駄に時間をかけずにきちんと以前と同じように泳ぎだせるよう最大限の配慮をすべきだ。どんな魚でも、一匹との出会いを感謝し、きちんとパニックが収まるように回復させ、しっかりと泳ぎ出すのを待つ。その一瞬の方が、釣る前よりも満足できるんだから不思議なことだ。

3) How can we make amends to the nature from which we take some much
いつも何かを与えてくれている自然に対して、何かしてあげられることはありますか？

ディヴィッド：

この星が今おかしな事になっているのは偶然じゃないと思う。誰でも大なり小なり、地球環境をおかしくさせることに加担している。僕らの生活を支える現代社会は空に排気ガスを吐き出し、海を酸性化させ、川をダムでせき止め、生き物が住めないような護岸を作り出し、プラスチックのゴミをあちらこちらにまき散らしている。釣りの中でできることならば、ゴミを捨てない、野鳥に危険な釣り糸を後に残さない、生態系を狂わせる植物の種を持ちこまないよう、ブーツの底についた付着物は完全に取り除くなど、色々あると思う。でもそれって、良いマナー程度のことかもしれないけど、わかりやすいメッセージになると思うんだ。そういう志って人にも良い影響を与えることだし、やって良い事だと思えば、広がっていく。僕は釣りをする人は、もっと個人としての責任を自覚するべきだし、自分が釣りをを行う水場に対して愛着を持って丁寧に接して欲しいと思う。健全に保たれた水の世界は、遊び場として、食料を得る場所として、命をつなぐために、とっても大切な僕らみんなの世界なんだから、それくらいの感謝は形にすべきなんだよ。

URBAN ISLANDER

enevu⁺CUBE
エネヴェュー キューブ



わずか 97g、5cm サイズで濡れても使える
スイスデザイン高機能 LED ミニライト

製品詳細 & ご購入 > urbanislander.co.jp

🔍 [アーバンアイランダー で検索](http://urbanislander.co.jp)

東京フライフィッシング&カントリークラブに関するお問合せは、下記までメールでお願いします。

info@tokyoflyfishing.com